

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/5階しらゆりフロア)

事業所番号	2799400011		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大阪城南ケアセンターそよ風		
所在地	大阪府大阪市中央区森ノ宮2-5-3		
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便が良く商業施設の前という立地条件のなかで、その方が望んでいる事・困っている事を家族様とご本人とで考えて行き1個ずつ進めていく。何気ない事のようにですが、とてもその方にとっては大切なことで、一つ一つ分かって頂けるように支援しています。安らぎの時間や入浴は、ゆったりと過ごして頂き美味しいものを目で見え楽しめるように工夫して味わって頂き要望を尋ねてとりいれています。個人個人のプライベートな生活と、集団での助け合いながらしていく生活を支えて個人がのびのびと生活出来る空間を演出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国で多数の高齢者介護事業を展開している(株)ユニマツグループの事業部「そよかぜ」に属し、当事業所は開設15年になり、森ノ宮駅より徒歩10分で、北側には大阪城、目の前はショッピングセンターと、散歩や買い物に恵まれた環境にあり、自治会も古くからの住民も多く、自治会の消防訓練・敬老行事などに参加して地域の人々と良好な交流がされていたが今は中止である。利用者には何時でも笑顔で過ごしてもらいたいと、理念を「笑顔のある暮らしを大切に」としている。利用者に寄り添えるように担当を決め、花の好きな利用者の要望で月2回花を買い部屋に活けて笑顔が見られ、体形変化の利用者には遠く離れた家族に代わって衣類の買い物をしている。管理者は職員確保に苦慮し、新人職員の指導に奮闘する中、利用者の望む生活の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりで新しい理念に繋がれず笑顔のある暮らしを大切に基本の理念を新職員と共有して実践に繋げている	事業所理念「笑顔のある暮らしを大切に」を職員皆で考え作り上げている。リビングの壁に季節の行事の作品を掲示し、その中に言葉を書いて作り上げ目に付くようにしている。理念は入り口にも掲示し、申し送りノート表紙にも貼って何時でも意識するようにし、また会議で話題にし確認してケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員が共に働くそよ風のスタッフで地域での情報を得ながら施設が近所づきあい出来るように取り組んでいます	自治会に加入し、自治会の消防訓練や敬老食事に参加したが今は中止で、敬老会では品物を受け取っている。コロナ収束後はボランティア・職場体験などを受け入れ、自治会行事にも参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中でなかなか地域に向けて活かしていけず利用者様の健康と動きの少ない中での取り組みを中心に日常の支援に力を入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開くことが遠のいている中機会を持ち情報を直接お伝えしたいと考えています 家族様・利用者様から意見を聞きサービスに繋がりたいと思います	コロナ禍で対面開催は出来ず、書面開催として事業所の現況を報告し、意見をもらえるよう用紙を郵送している。書面でも年6回の開催には至っていない。	運営推進会議は、民生委員・地域包括支援センター職員に事業所の現況報告をして意見をもらえるよう郵送しているが、年6回開催しておらず、広く意見をもらえるメンバーの構成や、意見を収集した議事録を作成することを期待する。議事録は事業所内で公開し、家族に届けることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へのコロナについての報告を伝え施設と地域が協力関係を築ける様努力する	区の保健福祉課の介護保険担当に申請や報告に出向き、分からないことは電話で聞いたり、生活支援担当に情報を伝えている。コロナ感染状況やワクチン接種の情報を受け、抗原検査キッドの情報はメールで受け取り、感染予防のガウンなどの支給を受けている。区のグループホーム連絡会に加入し、ZOOM会議で情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者全ての職員が全体会議研修にて身体拘束の弊害を理解して利用者様にどうすれば拘束しないでできるサービスをご家族様と一緒に考えて行動。 工夫しながらケアを進めている。	身体拘束の研修は年2回全体会議で実施している。身体拘束等適正化の為に指針を作成し、対策を検討する委員会を3か月に1度開催し、職員は議事録で確認している。「車椅子はテーブルにくっつけない」など具体的に話をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は安全上施錠しているが、閉塞感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は管理者職員全体が常に頭に置いて理解し危険のないようにスタッフ同士見返されることのないよう声を掛け合いながら防止に努め、研修にて理解して注意していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居の多い中成年後見人制度をキーパーソン様にお知らせして必要性を考えた時管理者は理解して考えて頂きスタッフも相談に応じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明も時間が経過すれば不安や疑問についてご理解頂けていた点が不安になる事も納得いただけるようお電話・面会にて説明を行い理解を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族様から一方的でなく意見・要望がうかがえるよう、運営推進会議報告用紙の中に意見・要望用紙を折り込んでいる。	家族の意見は、品物を届けに来た時や電話で聞き、予約で面会に来た時にも聞いている。家族から、「以前のように遠足に出かけたい」「職員の入れ替わりを教えてほしい」との要望を受けている。寝たきりの利用者のシャワー使用やトイレ介助時の意見を聞き、個人の申し送りノートに記載し共有して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの少ない中週一回はリビングにて見守りしながら話し合えるよう機会を設けている。	職員会議では、個人申し送りノートに記載したことの中で、検討が必要なことを話し合っている。職員の居室担当を決め、利用者の雑貨の購入などを決めている。管理者は職員と随時面談をして、困っていることなどの相談に応じている。時に提案を受けてセンター長に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なかなかベースアップも少なくスタッフも少ない環境で一人一人がサービスに努力している姿をもっと代表者は理解に努めてほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成は一人一人にケアの力量を把握しどうすれば出来上がりサービスに繋げるか声かけ方法を考えて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの中でなかなかネットワーク作りや勉強会ができない中ズームにて活動を通して参加している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に本人・家族様からうかがった不安・要望を申し送りの個人ノートに記載してスタッフ一同周知してケアに努めるが困ったときは家族様と一緒に考えて行きアイデアを出し合ってケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来られる時は、まずあいさつをして近況についてお話ししたりお伺いしたりしています。 不安や要望をご家族様と共に考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	マッサージの先生方と、お話をしたり、本人様にも感想を聞くようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にお食事をしたり、洗濯物を一緒にたたんでいただいたり、ボール遊びをした塗り絵を一緒にしたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が納得されるよう、ご家族様と一緒に話をしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が携帯電話でお友達やご家族様とお電話される時など電話帳機能などを使うお手伝いなどしています。	家族や親戚の人がガラス越しの面会に来てくれている。知人に手紙を書いたり、家族と電話の取次ぎをしてもらい話している利用者がいる。家族の写真を持って来てもらったり、故郷の富士山の絵を描いたり、昔の歌謡曲を聞いて懐かしみ楽しんだりするのを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置でその場の状況にあった位置を変えて孤立しないようにスタッフは心遣いして利用者同士の輪を繋げている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで御逝去された後もご家族様への心の痛手をフォローする支援を行っている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いばかりで実現は難しいことも家族様に相談を持ちその方の思いに近づけるようご本人・家族様・スタッフと話し合って近づけるよう考えて行く	家族や利用者から聞いた実態調査表を基にフェイスシートを作成し、入居後の利用者の動きや言葉を事業所独自のアセスメントシートに記録している。利用者の思いに沿えられるよう、花の好きな利用者には花を買って部屋に飾り、イルミネーションを見たい人にはドライブで御堂筋のイルミネーション見学を計画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく生活していけるよう本人またはご家族様に今までの生活を尋ねてイキイキしていた頃のお話を聞き出しサービスに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体の中での日々の暮らしの中で個人を把握して行っていくには大変な努力が求められますが出来る力を見落とさずスタッフ声をかけながら行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心安全な生活が送れるように家族の意見を聞き関係者や介護職・他のグループホームでの違った意見を参考にして介護計画を作っている	介護計画のは短期目標6か月・長期目標1年としている。介護計画作成時は家族の意見を聞き、医師・理学療法士・鍼灸師・看護師など関係者の意見を取り入れ、毎日のモニタリングを参考に計画書を作成している。利用者の状態に変化があれば随時見直しをして、その人に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の申し送りノートの中に気づきや出来事を記入して久しぶりに来た職員も共有できるように介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さなことで本人や家族にとっては大切な事なので出来事や必要性をサービスに取り入れて相談をもちながら進めて行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアの協力やお友達からの手紙など今までの生活と変わらない暮らしをできるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅から通っていた馴染みの先生による往診に安心を得られそよ風でかかりつけとなり受けられる安心 専門医が来て下さり医療面を任せられる納得が本人・家族には大切だと思います	3か所の協力医がかかりつけ医となり、内科・歯科とも週1回、全員が訪問診療を受けている。緊急時はかかりつけ医に連絡し、医師の指示で受診が必要な時には職員が同行している。診察結果は協力医に連絡・報告し、家族にも伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	困ったとき訪問看護師にアドバイスをもらいそれでも疑問に感じた時はかかりつけ医に相談しながら利用者の健康管理の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の手配を素早く行い早く改善できるように情報の提供を行いご家族様と相談を持ち隊員に向けカンファレンスを開催してスムーズに退院できるように努める		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について家族様と重度化に向けての取り交わしの書類を作成し対応方針の説明をし共有して支援を行えるよう職員・家族・介護に向けてのチーム作りをしていく	入居時に、終末期や重度化した場合について説明し同意書を交わしている。看取りが必要になった場合は再度医師より説明し、利用者・家族の意向を聞き、事業所で出来る事・出来ないことを説明し看取りケアを行っている。関係者・看護師と看取り前後の勉強会を行い、看取りケア指針を基に1名の看取りを行い、グリーフケアの記録を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時は初期の対応が慌てず出来るよう研修を行い4F・5F協力して技術を身に着ける		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発生時に備えて食料や水は備蓄しており、慌てず避難できるようスタッフ間で共有して訓練を行い取り組んでいっている	春と秋の2回、消火・避難訓練と通報訓練を行っている。今年7月に大阪市消防署の立会いで通報及び消防訓練を行い16人の参加があった。水・食料の備蓄は7日分完備し、「災害時マニュアル」と「連絡網」(ライン)を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	知り得た情報は秘密保持業務違反になるため他言しないこと。 個人のものを見てはいけない、必要な時は本人の同意を得る。	接遇研修を定期的に行い、日頃から慣れに注意し節度を持った対応に心掛けている。特に入浴時・排泄時には配慮した対応や言葉遣いに心掛け、職員間で互いに注意し合って正している。個人情報の書類などは鍵付き書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に必要な情報を適切な方法、わかりやすい表現を用いて提供し、利用者の意見・意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々本人と家族のニーズに応えられるように支援する。 個々の日常のリズムを崩さないようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで通りでいたいという本人の気持ちを尊重する。身だしなみを整えると気持ちも前向きにさせる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にみんなで食べることが健康につながる。食について話をするコミュニケーションにもなる。	昼食のみユニットのキッチンで手作りし、夕食は施設の厨房で調理し提供している。利用者の食べやすい形態にして、ミキサー食・ペースト食は白湯でなく、鰹のだし汁で薄めている。食事レクリエーションのお好み焼きや誕生日食・行事食があり、皆既月食の日には、利用者と一緒に白玉団子・モミジ・うさぎ羊羹を作り、月見を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事などの一人一人に体内の吸収はそれぞれ違いがあり、尿・便・呼吸・汗とか排泄され皮膚の表面で蒸発し失われます。一人一人に用いた水分摂取や食事量に応じた介助に気を付けながら取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	加齢と共に嚙む力や飲み込む力が衰えるのは自然ですが、正しいケアでいつも健康に保つ事が出来ます。無理強いするのではなく、段階を踏んで少しずつ口腔ケアに慣れてもらえるように心がけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の生活背景・活動・意欲・座位保持・ポータブルトイレ・トイレ誘導のためのつかまり立ち機能などに気を付けています。また尿意・膀胱容量・排尿日数・便意・便秘・下痢になる排泄機能に気を配りながらトイレでの排泄を心がけている	利用者の機能低下予防のために、トイレで座位保持の便座使用を心掛けている。トレーニングパンツとパッドを併用し、オムツ使用を減らしている。居室でポータブル使用者もいる。夜間のみオムツ使用者が6名で夜間巡回は2時間ごとに行い、安眠を妨害しないように個々に応じた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をしっかり食べて水分補給と食物繊維を十分にとって頂く。一人一人の体のバランスに応じた食事摂取・水分補給をし心も体もバランスの取れた排泄ができるように心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日の疲れをとる大事なリラクゼーション皮膚を清潔にする。一人一人の体調に応じリラックスしてもらえるように取り組んでいます。入浴後はしっかり水分を取って頂き、さわやかな毎日を過ごせるように心がけています。	週2回の入浴日を基本とし、汚染時など必要時にはシャワー浴を追加している。浴室は3方向介助が出来、リクライニングシャワーチェアがあり、安全に清潔ケアが出来る。ゆず湯などの季節湯を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活状況健康や精神のバランスに心配りしながらよりよい環境にし質の良い睡眠を促すように取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・訪問看護師と連携を取りながら目的や副作用を理解し服用する方法にも気を付けお薬の管理にも注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が必要な存在として生きがいのある毎日が過ごせるよう取り組み無理のないように配慮しながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況で外出できなストレスがある中、朝の人の少ない時間帯に施設一周という短い距離での散歩外出をしたり12月の車の中でのイルミネーション外出を設けたりしています。	コロナの感染状況により外出場所を考慮して、施設周辺や建物の周囲を散歩している。以前は近隣神社に参拝し、境内を散歩していた。今は屋上が使用出来ず、窓辺などで日光浴・外気浴をし、居室前の廊下を歩き運動している。今年は2回に分けて御堂筋と難波パークスのイルミネーション見学出かけ、車の中から鑑賞する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは大切ですが不要な争いを招くことが多く必要な物があれば居室担当が購入代行する。 近くのヤクルトストアで買い物する支援をしています。 またお花の好きな利用者様には家族様より預かったお金でお花を購入して楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達との手紙のやり取りや家族や大切な人との電話のやり取りは機会がある毎に支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者様が一番長く過ごす場所なので居心地よく過ごせるよう職員全員気を付けています。自分たちが気持ちよく過ごせる自分たちの場として工夫している	リビングには行事写真と手作り作品を飾り、各テーブルの小瓶にガーベラ・カーネーションが生けられていた。空気清浄機を設置して定期的に換気し、テーブル・トイレ・居室の取手など手に触れる箇所は感染予防クロスで覆っている。居室・床・リビングルーム・廊下など全て職員が清掃と整理整頓を行い、清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士またはその反対で対立する人は避けてしかし遠ざけないで生活できる場を設けお互いの部屋には「ホッ」とできるスペースを作っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団・枕・椅子においてもその方に合った配色で気持ちの落ち着ける使い慣れたものやお花のお好きな方には2週間に1度生のお花を購入して活けてもらっています	居室には、エアコン・防災カーテン・広いクローゼット・カウンターテーブル・電動ベッドが完備されている。利用者は馴染みのタンス・テレビ・仏壇を持参し、家族写真・愛犬の写真が飾られている。希望によりコーナーに1畳の畳を置き、居心地よく暮らす工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来ることに応じて支援しその方がやっていけることを支えて失敗を少なくしていけるよう見守りなんでもない生活づくりを支援していく		